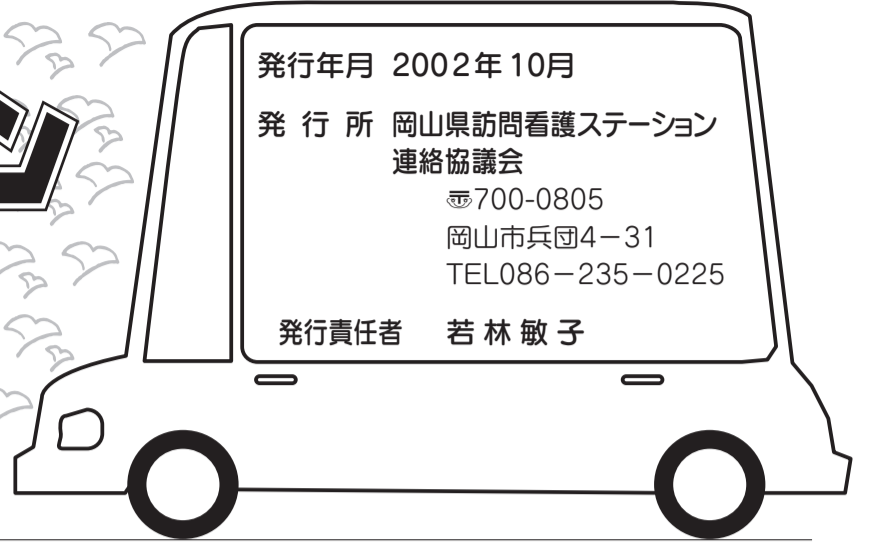


訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第4号



発行年月 2002年10月
 発行所 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会
 ☎700-0805
 岡山市兵団4-31
 TEL086-235-0225
 発行責任者 若林 敏子

これからの訪問看護活動について

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
 副会長 重平 典子

今年の夏は猛暑というより炎暑という言葉がぴったりの日々が多く、利用者、家族はもとより自分の健康管理に神経を使われたことと思います。今になって夏の疲れが出ているのではないかと察します。

会員の皆様方には日々在宅ケアの推進に多大なご尽力をいただき、深く感謝いたしております。また、協議会の活動につきましてもご理解とご協力いただき厚く御礼申し上げます。

さて、私は協議会発足時から役員として、また平成11年度からは副会長として努めさせていただき、私の訪問看護は連絡協議会と共に歩んできたように思います。これもひとえに会長をはじめ会員の皆様のご協力の賜物と感謝いたしております。

訪問看護ステーションは平成4年に老人訪問看護制度が制定され、現在まで老人健康法、健康保険法、介護保険法、の中で活動が展開されています。利用者により運用される法律は違っていますが、訪問看護利用者は在宅療養者ということに何ら変わりはありません。在宅療養者が安心して在宅で生活できるように支援するのが私達の基本になっています。そこには「生命の保証」がないと安心した在宅療養が成り立たないのではないのでしょうか。介護保険が中心となりサービス

訪問看護ステーション「あかいわ」
 管理者 菅野友子

平成14年4月1日より赤磐郡山陽町に「訪問看護ステーションあかいわ」を開設いたしました。当ステーションは地域のかかりつけ医を指す「あかいわファミリークリニック」と「デイサービスセンターくすのき」と同一敷地内にあり、癒しをテーマにより良いサービスを提供できるように努め、皆様が住みながら安心して生活を送れる様にお役に立てればと思います。スタートさせて頂きました。

当ステーションでは機能の再獲得を考え、リハビリテーション専門職による在宅での自立を目指す機能訓練及び実際の生活場面でのADL訓練、住宅改修、福祉用具などのアドバイスを行っています。

訪問件数は少ない現状にありますが、お一人お一人の状態にあわせて心身ともに癒される看護を提供していきたいと思っております。

新設のステーション紹介

訪問看護ステーション「みのり倉敷」
 野田育美

訪問看護ステーションみのり倉敷は、倉敷市老松に平成14年4月に開設されたばかりの事業所です。「みのり」は、利用者の方に実りある生活を送っていただくため、精一杯のサポートをさせていただきます。当初、株式会社であること、母体に医療機関を持たない事業所であること、PR活動という全く経験のない仕事から始まりました。

そして、人と人とのつながりを大切にしたい地道な活動の結果、7月初め頃より少しずつ声を掛けていただけようになり、ステーションとして軌道に乗りました。関係機関の皆様にご協力を借りまして心より御礼申し上げます。

利用者の方に、心より満足していただけるサービスが提供できるよう日々努力して参りたいと思っております。今後とも、よろしくお願ひいたします。



西粟倉村訪問看護ステーションは、人口約1800人の山村に位置する事業所です。今まで訪問看護の必要な方には、国保診療所からサービスを提供していましたが、今春、国民健康保険総合保健施設「いきいきふれあいセンター」のオープンに伴い、ステーションを開設しました。

平成14年度 訪問看護従事者研修年間計画について

多数の会員様の参加を期待しています。 ※都合により、変更がある場合がございますのでご容赦下さい。

日時	テーマ	ねらい	講師・助言者	方法	会場
平成14年 11月7日(木)	家族心理、支援のあり方	・家族心理を学び在宅看護に活かす	家庭看護研修所 所長 渡辺裕子	講演	岡山県看護研修センター 4F大ホール
11月16日(木)	公開講座 第1部 往診・訪問診療の立場から見た在宅療養 第2部 在宅における看護ケアポイント	・在宅における看護のポイントを学び訪問看護に活かす	小林内科診療所 副院長 永井 宏 フジ・アールシー株式会社 学術・教育担当 富加見美智子	講演	えきまえミヨシノ
12月5日(木)	事例検討会(岡山)	・介護保険施行下の他職種との連携と継続看護	事例提供者 マスカット訪問看護ステーション 岡山医師会訪問看護ステーション 訪問看護ステーションのぞみ 助言者 おおさ苑在宅看護支援センター 保健婦 矢庭小百合	グループワーク	岡山県看護研修センター 4F大ホール
12月19日(木)	岡山市合同研修会 生活習慣病の予防について	・生活習慣病の最新の知識を学び訪問看護、指導に活かす	交渉中	講演	岡山県看護研修センター 4F大ホール
平成15年 1月	面接技術の実際について 人間性を高めるカウンセリングの方法	・利用者および家族を身体的、精神的にサポートしていくためのカウンセリング技術を身につける	岡大教育学部 教授 山本 力 交渉中	講演 演習	岡山県看護研修センター 4F大ホール
2月	事例検討会(倉敷)			事例検討	倉敷アイビースクエア

ステーションからのリレーだより

四季の移り変わりを 感じながらの訪問看護

訪問看護ステーション ゆうあい 妹尾和子

勝山町は人口約1万人弱の町で、山々に囲まれたのどかな所です。

訪問看護ステーションゆうあいは開設して3年になります。スタッフは2.5人で、病院勤務の時はそれほど感じなかった季節の移り変わりを肌で感じながら毎日訪問をしています。夏は山中で猿と出会ったり、冬は雪が多く、長靴を履いて出かけたり、利用者の家族の方が雪かきを待っていて下さりということもありました。

スタッフの一人が端午の節句に菖蒲を用意して入浴介助の時菖蒲湯にし、「菖蒲湯なんて何年ぶりかです」ととても喜んでいただけました。

住宅で過ごすには、共に生活をしたり、介護を行っている家族の方の考え方や介護力の影響が大きく、仕事を持っていたり、老老介護であるなどそれぞれに事情があります。技術面、接遇面を考慮して、個々の状況に応じた看護ができ、お互いの信頼関係が築ける訪問看護でありたいと日々思っています。

県北「日本原」の便り

訪問看護ステーション あゆみ 山本好子

訪問看護ステーション「あゆみ」は、平成8年12月に開設し、現在拠点を日本原病院として活動しています。県北の勝北町、奈義町にまたがる日本原は、夏の台風時には、「広戸風」という、日本でも三本の指に入るといわれる突風の吹く地域です。冬場は那岐山から吹きおろす風の中、雪かきをしてから出発という状態の中で日々訪問しています。

人員は看護師3名とヘルパー一名の四名です。地域医療との密着を目指し主治医との連絡を密にするため、診療所の在宅ミーティングに出向いたり、施設との連絡をとっていくため各地域のケース会議へ参加し情報交換をしています。

訪問内容は、清潔の援助、排泄の援助、リハビリが主ですが、三十分から一時間という限られた時間の中で、利用者の方と家族の方が満足して下さることが出来るだろうかと考えさせられることが多くあります。在宅生活を頑張っておられる方が長く自宅で生活していけるよう、一人一人の個性を大切にしながら、家族にとっても良き相談相手になれるよう努力をしていきたいと思っています。

訪問看護ステーション開設10周年を迎えて

倉敷訪問看護サービスセンター

亀高小百合

倉敷訪問看護サービスセンターは、昭和63年厚生省のモデル事業として発足し、訪問看護ステーションとして開設し10周年を迎えました。事業に先駆けて行われた訪問看護婦養成講習会を終えたばかりの、在宅看護未経験の看護師12名により始められましたが、当時は訪問看護の社会的認知度は低く利用者は20名弱でした。

しかし、この時期に利用者の方とゆっくりと向き合える時間的ゆとりと良き指導者に恵まれたことにより、訪問看護の基礎が築き上げられました。この10年間、二人一人の状態に合わせた温もりのある看護の提供をモットーに保健、医療、福祉との連携を図りながら看護を実践してきました。少子、高齢化の社会の中で在宅での生活維持が困難となつてきていますが、利用者の生活の質の向上と満足を得られるよう支えていきたいと思っています。利用者、主治医を始め地域の方々に信頼して頂き、地域に根ざしたステーションとして今後も発展していけたらと願っています。

訪問看護ステーションまいんど

都築昌恵

”まいんど”は、「あなたのことをいつも心にとめていますよ」という訪問看護ステーションを目指して名づけられました。そのまいんども、平成4年7月に開設してはや10年を迎えることができ、感慨無量です。

この10年間でスタッフも変わり、訪問している対象者も医療依存度の高い方や末期の方が増加していきま

した。在宅へのニーズが高まり、訪問看護師としての質が問われ、利用者から選ばれる時代へと転換してきて

たのです。そうした流れの中、開設当初から訪問させて

いる利用者の方が、3名いらつしゃいます。「やつぱり家が一番いい」と笑顔で話して下さる方々に励まされ、私達自身も続けてこれたのではないかと思います。又多くのターミナルの方とも出会い、「生きること、死ぬこと」を一緒に考え、悩みながら時間を共有してきた中から得たものは、自分達の宝となつていきます。

こうして10年たちました。が、これから先も一日一日を大切に、より地域の方々に親しまれるステーションを目指して、「まいんど」の心を忘れずに看護していきたいと思っています。

こつなん訪問看護ステーション

桐野弘美

10年前の夏、8月1日開設されました。

今まで、病院という建物の中で働いていた私にとつて、まず、体力勝負でした。一件一件地図を片手に制度の説明から始まり、又、私自身も新しい制度を理解しなければならぬ事であり戸惑いもあつたスタートでした。今では、精神的、肉体的にかなり鍛えられたように思います。

しかし、10年たつて少し淋しいと感じる事は、当時一緒に悩み励まし合った他ステーションの管理者の方が少なくつた事です。採算と実務の間に挟まれ、特に二十四時間体制について

は、少人数、非常勤スタッフが多いとどうしても管理者の肩に大きいのしかかつかつてしまひ「やりがい」という言葉に置き換えるには少し辛いように感じます。短い紙面では語りつくせませんが、利用者の方はもちろんスタッフ、管理者の私たちも癒されなければならぬと思います。

訪問看護が大好きでも、続けていくには本音をぶつけられる同じ立場の管理者の仲間が必要だと思っています。「あなたと出逢えて良かった」と言つて頂けるようこれからも共にがんばりたいですね。支えと癒しをありがとう。

「事務局より」

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
全国訪問看護振興財団
全国訪問看護事業協会

の研修会に参加して下さい。

連絡協議会では研修会費を援助しています。ふるってご参加下さい。

連絡先 TEL 086-235-0225
FAX 086-235-0225
佐々木 静

編集後記

訪問看護制度が始まって10年目という輝かしい今年、なんと馬年だということに気づきました。きつと、これはただの偶然ではなく、これからも訪問看護が発展していくに違いないということではないでしょうか？

か？と思わずにおれない希望の観測とも言えるかも知れませんが、ともかく、「馬肥ゆる秋」おいしいものをたくさん食べて頑張りましょう。

